



1学期の学習の成果は？～期末テスト～

6月26、27日、1学期の期末テストを行いました。どの学年も真剣に取り組んでいましたが、特に1年生にとっては初めての定期テスト、緊張した面持ちで取り組んでいました。

さて、なぜ定期テストを行うのでしょうか。小学校までのように単元ごとに行うテストだけでは足りないのでしょうか。定期テストの意義について、私は次の2点があると考えます。

まず1つ目は、「**より本当の学力を測ることができること**」です。単元テストのように範囲が狭いテストでは、短期記憶だけに頼った情報でも高得点をとれます。しかしある程度範囲の広い定期テストでは、短期記憶では限界があります。定期テストの実施によって、中・長期の記憶として学習内容が定着しているかを測ることができ、またその結果をふまえて自らの学習姿勢を見直すこともできます。

2つ目は「**自己管理能力を養うこと**」です。定期テストは年間計画で期日が決まっており、2週間前にはテスト範囲や何日に何の教科があるのか、などが発表されます。それにもとづいて、自分に合った計画を立てたり、前回の反省をもとに日程や配分を調整することもできるでしょう。目標のために計画を立てて実行することは、テストのみならず、生涯にわたり必要な力であると思います。

今回のテストについて、点数の結果だけではなく、取り組みについてもお子さんと一緒に振り返り、次回に活かしてほしいと思います。



沈黙の中、ペンの走る音だけが響く…。がんばれ藤中生！

0.1秒を削り出せ！～通信陸上県大会～

6月29、30日の2日間、北上総合運動公園で県通信陸上大会が開催され、本校からは一関地方予選会を通過した5人の選手が出場しました。県内各地の予選会を勝ち抜いてきた選手との、レベルの高い競い合いの中で、全員が一生懸命のパフォーマンスを見せてくれました。中でも1年生の三浦愛鈴さんは予選を通過、決勝では地区予選から10秒もタイムを縮めました。

今後特設陸上・駅伝部は、9月に行われる一関地区駅伝大会に向けて、再び本来所属する部活動や受験勉強との両立を図りながらの活動となります、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

大会結果(敬称略)

種目	選手名	結果
1年男子 100m	小川快斗(1B)	13秒62(予選)
1年女子 1500m	三浦愛鈴(1A)	5分29秒35(予選) 5分26秒13(決勝14位)
共通男子 400m	大住勝太郎(2B)	1分04秒05(予選)
共通男子 800m	千葉悠玖(3B)	2分22秒58(予選)
共通女子 800m	佐藤布柚(3A)	2分52秒03(予選)



伝統文化にふれる～2年生着付け教室～

7月1日、2学年家庭科学習の一環で、浴衣の着付け教室を行いました。講師としてご協力頂いたのは小林豊子きもの学院の一関市内の先生方です。

生徒たちは準備して頂いた浴衣の中から好きな色・柄を選び、着方を教えてもらいながら実際に着てみました。なかなか難しく悪戦苦闘している生徒もいましたが、最後には無事、全員が着ることができ、その後、盆踊りを踊って記念写真を撮りました。

教室の教授である佐藤先生は、「生まれたとき（産着）や七五三、結婚式。そして亡くなったときなど、人生の節目に日本人は着物を着ることがある。日本の伝統的な衣装として着物の着方を覚えて、もっと多くの機会に着物を着て楽しんでほしい。今回の授業がそのきっかけになれば…」と話していました。実際に生徒たちは意欲的に授業に参加し、ある生徒は家に帰ってから浴衣を出して、改めて1人で着てみたそうです。

今回のように、学校の教育活動において、地域住民の皆様のお力添えを頂くのは生徒たちのみならず教職員にとっても大変貴重な学びの機会です。今後とも地域・保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。



けっこう難しい…

「このあとどうするんですか？」



浴衣美人&浴衣美男子たち

学校運営支援協議会を開催しました

6月24日、第1回の学校運営支援協議会を開催しました。学校運営支援協議会は、地域住民や保護者等が協議することにより、地域住民等の学校に対する支援及び協力を促進し、信頼関係を深め、もって学校運営の改善並びに生徒の健全育成を図るために、全国の学校で設置が進められているものです。

この日は地域住民を代表して委嘱された8人の委員にご来校頂き、授業参観の後、学校運営の基本方針についての承認やその他学校運営に関わる貴重なご意見を頂きました。今後の学校運営に生かして参りたいと思います。



授業のようすも見て頂きました

頂いたご意見より

- かつて住民自治協議会より「藤沢の良いものを使って藤沢をPRしてください」という依頼をしたところ、生徒たち5・6名が集まり、地域の果樹園で栽培されているリンゴを使ってリンゴパイを製造・販売する取り組みが行われた。勉強だけではなく、藤沢という地域の良さも生かした取組も期待する。
- 個人や学校として働き方改革を進めていくことも大切ではあるが、市が特定の業務内容の改善・軽減を図るためのサポーターの配置などを統一して継続的に進めていくことで改善につながっていくものと思う。PTAや校長会等で機会をとらえて訴えていく必要もあると考えている。